

写

基 発 第 1218013 号
平成 18 年 12 月 18 日

中央労働災害防止協会
会長 御手洗 富士夫 殿

厚生労働省労働基準局長

「安全衛生情報センター運営等委託事業」の成果の公表について

平成 18 年 12 月 14 日付け中災防発中小 460 号により申請のあった件については、申請のとおり承認する。

鋳物製造事業場における リスクアセスメント推進事業実施報告書

〔平成18年度 自律的安全衛生管理活動の普及促進事業における
業種別団体を通じた普及・定着促進事業報告書〕

平成19年3月

中央労働災害防止協会

目 次

1	概 要	1
2	実施状況	1
3	全体会議（自律的安全衛生管理運営会議）	3
4	集団説明会	6
5	リスクアセスメント・労働安全衛生マネジメントシステム相談員養成	6
6	リスクアセスメント推進研修会	9
7	鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント入門マニュアル作成委員会	11
8	本事業の実施効果等	14
	1) 事業の実施効果	14
	2) アンケート調査と実施効果	15
資料		
	資料1 鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業実施計画	29
	資料2 研修会資料：「演習資料」	31
	資料3 鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント入門 マニュアル作成委員会実施計画	35

鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業実施報告書

1 概要

本事業は、傘下事業場の多くが中小企業である業種別団体を選定し、当該団体を通じて、労働安全衛生マネジメントシステム及びリスクアセスメントの中小企業への普及・定着促進活動および業種別団体が行う研修会に対する講師派遣等の支援を行うものであり、平成 18 年度は、社団法人日本鋳造協会（以下「鋳造協会」という。）を通じて、主にその会員である鋳物製造事業場を対象に、特にリスクアセスメントの導入を目指して実施した。（厚生労働省委託事業）

1) 名称

平成 18 年度 自律的安全衛生管理活動の普及促進事業の業種別団体を通じた普及・定着促進事業について、「鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業」と称した。

2) 目的

中小企業への労働安全衛生マネジメントシステム及びリスクアセスメントの普及・定着促進のため、鋳物製造事業場向けのリスクアセスメント導入の入門マニュアルを作成するとともに、鋳造協会を通じて、主にその会員である鋳物製造事業場を対象に研修会を開催し、労働安全衛生マネジメントシステムの中核的活動であるリスクアセスメントの導入の普及促進を図った。

3) 事務局とコーディネーター

事業の事務局を中央労働災害防止協会（以下「中災防」という。）中小企業対策部企画課におき、業種別団体の窓口・まとめ役として鋳造協会 1 名、リスクアセスメントの導入を図る入門マニュアル作成のまとめ役として安全衛生専門家 1 名（合計 2 名）を本事業のコーディネーターとして委嘱した。

4) 実施期間

平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで

5) 実施事項

事業の主な実施事項は次のとおりである。

- (1) 全体会議（自律的安全衛生管理運営会議）
- (2) 集団説明会
- (3) リスクアセスメント・労働安全衛生マネジメントシステム相談員養成
- (4) リスクアセスメント推進研修会
- (5) 鋳物製造事業場向けリスクアセスメント入門マニュアル作成委員会
- (6) アンケート調査

*参考：資料 1 「鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業実施計画」

2 実施状況

本事業の実施状況について次頁の進行一覧表に示す。

進行一覧表

鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業(業種別団体を通じた労働安全衛生マネジメントシステム及びリスクアセスメントの中小企業への普及・定着事業)

1 事業の概要

傘下事業場の多くが中小企業である業種別団体を通じて、労働安全衛生マネジメントシステム及びリスクアセスメントの中小企業への普及・定着促進活動および業種別団体が行う研修会に対する講師派遣等の支援を行う。平成18年度は(社)日本鋳造協会(鋳造協会)を通じて、その会員である鋳物製造事業場を対象に、特にリスクアセスメントの導入を目指して実施する。

なお、本事業は鋳造協会を対象に、中央労働災害防止協会(中災防)が厚生労働省委託事業として平成18年度に実施するものである。

2 主な実施事項

主な実施事項は、1)鋳造協会の32組合(支部組織)の事務局に対する事業説明(全体会議)、2)傘下事業場に対する事業説明(集団説明会)、3)32組合におけるリスクアセスメント(RA)及び労働安全衛生マネジメントシステム(MS)相談員養成(一日研修)、4)傘下事業場に対するリスクアセスメントを中心とした鋳造協会実施の研修会(リスクアセスメント推進研修会)、5)アンケート調査(傘下事業場に対する労働安全衛生マネジメントシステム及びリスクアセスメントに関するアンケート調査計2回)、6)鋳物製造事業場向けのリスクアセスメント入門マニュアルの作成などである。

3 スケジュール

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1)全体会議(自衛的安全衛生管理運営会議:鋳造協会支部組織である32組合の事務局に対する事業説明)			15									
2)集団説明会(傘下事業場に対する事業説明)												
(1)32組合で実施(合同開催)			合同開催	(延12回程度)								
(2)鋳造協会全国大会(10/12)で説明							12					
3)リスクアセスメント・マネジメント相談員養成研修(1日研修・鋳造協会各組合に相談員1名(合計32名)を養成)									8 (1日研修)			
4)鋳造協会実施のリスクアセスメント推進研修会(半日研修。傘下事業場に対し12地区で実施)										(延12回程度)		
5)アンケート(傘下事業場に対する労働安全衛生マネジメントシステム及びリスクアセスメントに関するアンケート調査計2回)				2)の集団説	明会後に実施						4)の研修会後に実施	
6)リスクアセスメント入門マニュアル作成委員会(鋳物製造事業場向けリスクアセスメント導入の手引書を作成)												
(1)本委員会			27	○		○	○					
(2)作業部会				○○	○○	○○	○					
参 考		11(鋳造協会、安全委員会)				20~22(中災防、新潟大会)	12(鋳造協会 札幌大会)					

(注1) 4)リスクアセスメント推進研修会は、北海道、岩手、埼玉、東京、静岡、愛知、岐阜、石川、大阪、広島、愛媛、福岡で開催。

講師は中災防地区安全衛生サービスセンター及び支所の安全・衛生管理士が技術的内容を、相談員が基本事項の説明と進行を担当する。なお担当予定の安全・衛生管理士は3)の相談員養成研修に参加する。

3 全体会議（自律的安全衛生管理運営会議）

鑄造協会の 32 組合の代表等を対象に、平成 18 年 6 月 15 日、東京で実施した。

主なテーマは、

- ① 事業のねらい
- ② 事業概要の説明とリスクアセスメント推進委員の役割
- ③ 講演「労働安全衛生マネジメントシステムについて」

であった。

リスクアセスメント推進委員は、各組合から推薦された 32 名であり、各支部地域の鑄物製造事業場にリスクアセスメント導入の普及・促進を図る担当者として活動し、さらに傘下事業場の相談に応じ研修会の実施等リスクアセスメント導入の推進を図る相談員をも兼務する。リスクアセスメント推進委員名簿は別紙 1 に、リスクアセスメント推進委員（相談員）の役割は別紙 2 に示す。リスクアセスメント推進委員と相談員は、当初別に考えていたが運営しやすさなどを考慮し兼任することとなった。

リスクアセスメント推進委員名簿 (H18. 6. 15) 取扱注意

北海道		北海道銑鉄鋳物工業組合
岩手県		水沢鋳物工業協同組合
山形県		山形県鋳物工業団地協同組合
群馬県		群馬県鋳物工業協同組合
埼玉県		川口鋳物工業協同組合
埼玉県		川口鋳物工業協同組合
東京都		東京鋳物工業協同組合
東京都		東京城南鋳物工業協同組合
新潟県		中越鋳物工業協同組合
長野県		長野県鋳物工業協同組合
静岡県		静岡県鋳物工業協同組合
愛知県		愛知県鋳物工業協同組合
愛知県		西尾市鋳物工業協同組合
岐阜県		岐阜県鋳物工業協同組合
三重県		三重県鋳物工業協同組合
富山県		富山県鋳物工業協同組合
石川県		石川県鋳物工業協同組合
福井県		福井県鋳物工業協同組合
京都府		京都府鋳物工業協同組合
奈良県		奈良県銑鉄鋳物工業組合
大阪府		大阪銑鉄工業組合
大阪府		浪速鋳物工業協同組合
和歌山県		和歌山県鋳物工業協同組合
島根県		島根県銑鉄鋳物工業組合
岡山県		岡山県鋳造工業協同組合
広島県		広島県鋳物工業協同組合
広島県		福山地方鋳造工業協同組合
香川県		香川県銑鉄鋳物工業組合
愛媛県		愛媛県銑鉄鋳物工業組合
高知県		高知県鋳造工業協同組合
福岡県		全九州銑鉄鋳物工業組合
熊本県		熊本県鋳物工業協同組合

リスクアセスメント推進委員（相談員）の役割（抜粋）

リスクアセスメント推進委員（相談員）は支部傘下の会員事業場に対して、

1 集団説明会における事業概要の説明と、2 リスクアセスメント推進研修会を実施する。

リスクアセスメント推進研修会に先立ち、リスクアセスメントの研修（相談員養成研修）に参加する。

1 集団説明会

本事業は中小規模の鋳物製造事業場に労働安全衛生マネジメントシステムとリスクアセスメントを普及しその定着を図ることを目標としている。まず、その中核的活動であるリスクアセスメントを実施することが肝要であり、集団説明会で会員事業場に対し、進行一覧表に沿って事業の説明を行い、後半に開催予定のリスクアセスメント推進研修会への参加勧奨を図る。

2 リスクアセスメント・労働安全衛生マネジメントシステム相談員養成研修（相談員養成研修）

（1）相談員とは

リスクアセスメント推進委員は相談員養成研修に参加し、リスクアセスメントの基本を学び、本事業最後に実施するリスクアセスメント推進研修会を運営する。

平成19年度以降は、各支部において傘下事業場がリスクアセスメント、さらに労働安全衛生マネジメントシステムの自主的な普及・定着を図るための相談員として活動する。

（2）内容

労働安全衛生マネジメントシステムの基本とその中核であるリスクアセスメントについて研修する。鋳物製造事業場にリスクアセスメントを導入するための基本について、新しく作成されるテキスト「鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント入門マニュアル」に沿って学習する。テキストは本研修会終了後に印刷予定である。

（3）カリキュラム

別添の「カリキュラム」（略）、「演習の進め方」（略）に沿って実施する。

（4）その他

リスクアセスメント推進研修会の講師を予定している中災防安全衛生サービスセンターの安全・衛生管理士と相談員は、演習指導と情報交換を通じて、後日開催するリスクアセスメント推進研修会の運営にあたる。

3 リスクアセスメント推進研修会

（1）開催地と日程

全国の12地区で開催を予定している。候補地：北海道、岩手、埼玉、東京、静岡、愛知、岐阜、石川、大阪、広島、愛媛、福岡

（2）内容

傘下事業場に対して、リスクアセスメント導入を目指してテキスト「鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント入門マニュアル」に沿って半日研修（3時間程度）を実施する。講師は安全・衛生管理士が技術的内容を、リスクアセスメント推進委員（相談員）が基本事項の説明と進行を担当し、標準カリキュラムに沿って実施する。なお、終了後アンケート調査を行う。

4 集団説明会

1) 支部開催

鑄造協会の支部（ブロック単位を含む）においてその傘下事業場に対して本事業の概要を説明した。開催状況は次のとおり。

鑄物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業に関する集団説明会の開催状況

NO.	開催日	開催地	参加者数
1	平成19年1月9日	北海道	23名
2	平成18年12月25日	岩手	31名
3	平成18年12月18日	東京	25名
4	平成19年1月11日	埼玉	45名
5	平成19年1月23日	静岡	19名
6	平成19年2月13日	愛知	20名
7	平成19年1月26日	岐阜	17名
8	平成19年1月19日	石川	21名
9	平成19年2月23日	大阪	25名
10	平成19年1月26日	広島	17名
11	平成18年12月13日	愛媛	22名
12	平成19年1月25日	福岡	15名
		(合計)	280名

2) 全国開催

鑄造協会の全国大会（平成18年10月12日（札幌））で、本事業の広報を兼ねて、労働安全衛生マネジメントシステムにおけるリスクアセスメントの役割とその効果、導入事例について発表した。

5 リスクアセスメント・労働安全衛生マネジメントシステム相談員養成

相談員候補であるリスクアセスメント推進委員並びに中災防地区安全衛生サービスセンター安全管理士（相談員養成研修後実施するリスクアセスメント推進研修会の講師を担当）を対象に、平成18年12月8日（東京）で実施し、相談員22名に対して修了証を授与した。

主なテーマは、

- ① 労働安全衛生法の改正とリスクアセスメントの推進について
- ② 相談員養成とリスクアセスメント推進研修会の進め方
- ③ 労働安全衛生マネジメントシステムにおけるリスクアセスメントの必要性
- ④ 鑄物製造事業場におけるリスクアセスメント導入の実際
- ⑤ 鑄物製造事業場におけるリスクアセスメントマニュアル（案）を用いた演習
- ⑥ 情報交換（担当地域の相談員と管理士）

であった。

研修会に参加した鑄造協会支部の相談員、並びに中災防地区安全衛生サービスセンター安全又は衛生管理士は次のとおりである。

<u>リスクアセスメント相談員養成研修 修了者名(12・8)</u>		<u>取扱注意</u>
相談員	岩手県	水沢鑄物工業協同組合
	山形県	山形鑄物工業団地協同組合
	埼玉県	川口鑄物工業協同組合
	埼玉県	川口鑄物工業協同組合
	東京都	東京鑄物工業協同組合
	新潟県	中越鑄物工業協同組合
	富山県	富山県鑄物工業協同組合
	岐阜県	岐阜県鑄物工業協同組合
	静岡県	静岡県銑鉄鑄物工業組合
	静岡県	静岡県鑄物協同組合
	愛知県	愛知県鑄物工業協同組合
	愛知県	西尾市鑄物工業協同組合
	三重県	三重県鑄物工業協同組合
	京都府	京都府鑄物工業協同組合
	大阪府	大阪鑄鉄工業組合
	和歌山県	和歌山県鑄物工業協同組合
	岡山県	岡山県鑄造工業協同組合
	広島県	広島県鑄物工業協同組合
	広島県	福山地方鑄造工業協同組合
	愛媛県	愛媛県銑鉄鑄物工業組合
	高知県	高知県鑄物工業協同組合
	福岡県	全九州銑鉄鑄物工業組合
中災防安全衛生サービスセンター管理士		
	北海道	東 北
	関 東	中 部
	北 陸	近 畿
	四 国	九 州



第 号

修 了 証

殿

あなたは平成18年度 社団法人日本鑄造協
会を通じた労働安全衛生マネジメントシステ
ム及びリスクアセスメントの中小企業への普
及・定着事業における相談員養成研修を修了
したことを証します

平成18年12月8日

中央労働災害防止協会

会 長 御 手 洗 富 士 夫

6 リスクアセスメント推進研修会

相談員養成研修終了後、支部地域の傘下事業等を対象にリスクアセスメント導入を目指した研修会（半日研修）を、北海道、岩手、東京、埼玉、愛知、岐阜、静岡、石川、大阪、広島、愛媛、福岡で合計 12 回、延べ 441 名が参加した。講師は中災防地区安全衛生サービスセンター（支所を含む）の安全・衛生管理士が技術的内容を、マニュアル作成委員（講師補佐）がリスクアセスメントの必要性を担当し、コーディネーター、鑄造協会、事務局（中災防中小企業対策部）が開催実施について支援した。

1) リスクアセスメント推進研修会の標準カリキュラム

標準カリキュラム (例)		ー開講 13:00～閉講 16:30ー
13:00	挨拶 支部長（地域主催者の代表）	
13:05	<u>講義1「鑄物製造業の労働災害の防止におけるリスクアセスメントの必要性」</u>	
～	担当：相談員	
13:25	[テキスト：はじめに、リスクアセスメントとは、第1章の1鑄物製造業の労働災害防止および健康障害発生防止におけるリスクアセスメントの必要性を説明]	
(休憩)		
13:35	<u>講義2「鑄物製造事業場におけるリスクアセスメントの実施手順」</u>	
～	担当：管理士	
14:15	[テキスト：第2・3章の実施手順を説明する(35分)。参考資料紹介(5分)]	
(休憩)		
14:25	<u>リスクアセスメント演習「危険性、有害性の特定～対応措置の検討」</u>	
～	担当：管理士、相談員、コーディネーター他	
16:15	[テキスト：第3章の演習を個人演習またはグループ討議により実施し、講評する]	
16:15	修了証書授与	
～		
16:25		
16:25	閉会挨拶 支部長（支部・地域主催者の代表）	

(時間配分と講義タイトル名は変更してかまいません。最後にアンケートを回収します。)

2) 使用教材

- ① 鋳物製造事業場におけるリスクアセスメントマニュアル（メインテキスト：別添）
- ② 演習資料（資料2）
- ③ 労働安全衛生マネジメントシステム（パンフレット：略）
- ④ 基礎からわかる作業手順書－安全作業に活かす実践ノウハウ－（略）

3) リスクアセスメント推進研修会の開催状況

NO.	開催日	開催地	参加者数
1	平成 19 年 1 月 25 日	岩手県奥州市	34名
2	平成 19 年 1 月 26 日	埼玉県川口市	26名
3	平成 19 年 1 月 26 日	愛媛県西条市	29名
4	平成 19 年 1 月 30 日	愛知県名古屋市	48名
5	平成 19 年 1 月 30 日	広島県広島市	30名
6	平成 19 年 2 月 1 日	石川県金沢市	40名
7	平成 19 年 2 月 13 日	岐阜県岐阜市	50名
8	平成 19 年 2 月 16 日	東京都港区	52名
9	平成 19 年 2 月 19 日	大阪府大阪市	39名
10	平成 19 年 2 月 28 日	北海道札幌市	14名
11	平成 19 年 3 月 5 日	静岡県静岡市	57名
12	平成 19 年 3 月 6 日	福岡県福岡市	22名
		(合計)	441名

4) プレス災害防止・リスクアセスメント推進フォローアップ研修会

平成 17 年度に実施したプレス災害防止・リスクアセスメント推進事業について、一層の普及促進を図るため、実施団体である（社）日本金属プレス工業協会に対して、フォローアップ研修会を実施した。開催状況は、下記のとおり。

プレス災害防止・リスクアセスメント推進フォローアップ研修会開催状況

NO.	開催日	開催地	参加者数
1	平成 18 年 5 月 18 日	石川県金沢市	36名
2	平成 18 年 5 月 29 日	栃木県鹿沼市	14名
3	平成 18 年 6 月 17 日	静岡県三島市	20名
4	平成 18 年 7 月 24 日	京都府京都市	25名
5	平成 18 年 8 月 25 日	埼玉県さいたま市	20名
6	平成 18 年 9 月 15 日	神奈川県横浜市	17名
7	平成 18 年 10 月 11 日	長野県諏訪市	94名
		(合計)	226名

7 鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント入門マニュアル作成委員会

リスクアセスメント・労働安全衛生マネジメントシステム相談員養成研修及びリスクアセスメント推進研修会の教材として使用するため、委員会を設置して、鋳物製造事業場におけるリスクアセスメントマニュアルを作成した。

マニュアル作成にあたっては、本委員会のほか作業部会を設けて具体的に検討を行なった。作業部会では実地調査を1回実施し、鋳造協会の協力を得てリスクアセスメント導入実施手順に沿ったトライアルを7社で実施した。なおマニュアルは相談員養成研修〔平成18年12月8日〕での意見を踏まえた第1版をリスクアセスメント推進研修会に使用し、さらにリスクアセスメント推進研修会での意見取り入れ、研修会に参加できなかった鋳物製造事業場への普及に活用することとしている。

また、今後、広く中小規模の鋳物製造事業場に対してリスクアセスメントの導入を図るため、鋳物製造事業場向けリスクアセスメントマニュアルの要点を抜粋したダイジェスト版を作成した。

1) 委員会メンバー [○：作業部会メンバー]、取扱注意

委員長

○増本 清 労働安全・衛生コンサルタント

委員

松原 光好 株式会社マツバラ 関工場 代表取締役社長

山本 茂 株式会社クボタ 恩加島工場 環境安全課長

田畑 隆 株式会社コヤマ 総務部総務課課長

鍛冶 純司 アイシン高丘株式会社 人材・安全環境部 主担当

長田 英明 東芝機械株式会社 材料加工事業部 鑄造部 鑄造課 課長

向井 平次 伊藤鉄工株式会社 顧問

宮西 義明 自動車鑄物株式会社 安全環境グループ長 部長

木村 一登 大和重工株式会社 取締役技術部長

田中 茂 十文字学園女子大学 人間生活学部教授 保健学博士

○村田 克 財団法人労働科学研究所 研究部 職場環境リスク研究グループ
主任研究員・工学博士

白崎 彰久 中災防・マネジメントシステム審査センター副所長

コーディネーター

○成瀬 正和 株式会社RM研究所 専務理事

○出津 新也 (社)日本鑄造協会 技術グループリーダー 工学博士

オブザーバー

○石野 育郎 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 安全課
副主任中央産業安全専門官

○安井省侍郎 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 安全課 技術審査官

事務局（中央労働災害防止協会）

前田美穂 中小企業対策部長

間宮直樹 中小企業対策部 企画課長

池田 隆 中小企業対策部 企画課課長補佐

高須幸治 中小企業対策部 企画課

2) 委員会開催状況と主な検討事項

(1) 本委員会

- 第1回 平成18年6月27日（於：女性と仕事の未来館）
（鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業の概要説明、委員会の運営、作業部会の設置、マニュアルの構成案）
- 第2回 平成18年7月12日（於：女性と仕事の未来館）
（標準工程の特定、主な危険性又は有害性と発生のおそれのある工程の特定、労働衛生関連事項の本マニュアルへの活かし方）
- 第3回 平成18年8月4日（於：女性と仕事の未来館）
（主な危険性又は有害性と発生のおそれのある災害の例、リスクアセスメント実施一覧表の記入方法等）
- 第4回 平成18年8月29日（於：女性と仕事の未来館）
（リスクアセスメントのトライアル（安全関係・衛生関係）の実施）
- 第5回 平成18年9月26日（於：中災防）
（リスクアセスメントのトライアル（安全関係・衛生関係）結果、マニュアル骨子案）
- 第6回 平成18年10月17日（於：中災防）
（労働衛生関連事項の本マニュアルへの活かし方、リスクアセスメント演習の事例、マニュアルの構成）

(2) 作業部会

- 第1回 平成18年7月20日（於：武山鋳造株式会社、株式会社マツバラ関工場）
（実地調査、標準工程の特定）
- 第2回 平成18年8月18日（於：女性と仕事の未来館）
（労働衛生関連事項の本マニュアルへの活かし方）
- 第3回 平成18年10月10日（於：中災防）
（労働衛生関連事項の本マニュアルへの活かし方）

参考：資料3「鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント入門マニュアル作成委員会実施計画」

8 本事業の実施効果等

1) 事業の実施効果

本事業の目的は、中小企業への労働安全衛生マネジメントシステム及びリスクアセスメントの普及・定着促進のため、①鋳物製造事業場向けのリスクアセスメント導入の入門マニュアルを作成すること、②鋳造協会を通じて鋳物製造事業場に対するリスクアセスメント推進研修会を開催し、労働安全衛生マネジメントシステムの中核的活動であるリスクアセスメントの導入の普及促進を図ること、中でもリスクアセスメントの導入事業場の割合を高めることである。本事業に係る①、②の目的はいずれも達成しており、実施効果の詳細は以下のとおりである。

(1) 鋳物製造事業場向けリスクアセスメント導入のマニュアル作成

マニュアルは委員会ならびに作業部会を設けて検討し作成した。委員は鋳物製造事業場から8人及び安全衛生専門家4人の計12人で構成された。

マニュアルでは、リスクアセスメント導入実施手順を、①実施体制（経営トップの決意表明と推進組織）、②実施時期、③情報の入手、④危険性又は有害性の特定、⑤リスクの見積り、⑥リスク低減措置の検討及び実施、⑦リスクアセスメント実施状況の記録と見直しの7ステップに絞って一覧表にまとめる方法を示した。

中小企業事業場で初めてリスクアセスメントを実施する場合でも円滑に進められるように、職場で感じた危険体験メモ、鋳物製造事業場の主な工程についての危険性又は有害性と発生のおそれのある災害の例、評価基準の例、リスク低減措置と災害防止対策の例等の資料を盛り込んだ。

資料作成においては、作業部会における実地調査（1回）、鋳造協会の協力を得て実施したリスクアセスメント導入トライアル（7社）、相談員養成研修における意見、提案などを踏まえ、職場における実際の作業をイラスト化し、実施手順に沿って手順表の見本を挿入するなど、実際の現場の意見を反映したマニュアルとした。

リスクアセスメント推進研修会実施後のアンケート調査結果をみると、9割以上の受講者から、おおむね分かりやすく導入の際の研修開催に役に立つと評価されていることから、マニュアル作成についての目的はほぼ達成されたと考えられる。

(2) 鋳造協会を通じたリスクアセスメント推進研修会の開催とリスクアセスメント導入の普及促進

傘下会員の多くが中小企業である全国的な業種別団体として社団法人日本鋳造協会を対象に、労働安全衛生マネジメントシステム並びにその中核的活動の一つであるリスクアセスメント導入の普及促進を図ってきた。

第1回アンケート調査によると、品質マネジメントシステムについては、“認証済み”事業場が37%、環境マネジメントシステムについては、24%となっているものの、労働安全衛生マネジメントシステムについては、“認証済み”は2%で、“取り組んでいる”と合わせても14%と低調な取組状況がうかがわれる。

しかしリスクアセスメントについて関心のある事業場は38%と高く、リスクアセスメントの導入によりその普及促進を図ることが期待された。

鑄造協会各支部における本事業推進のための集団説明会を全国で開催し(12回、280名)、リスクアセスメント導入の必要性と事業説明を行った。

さらにマニュアルを使用して各支部の傘下事業場の相談や研修会の実施等リスクアセスメント導入・推進を図る相談員を養成(22名、平成18年12月8日)するとともに、リスクアセスメント推進研修会(半日研修)を、全国各支部(北海道、岩手、東京、埼玉、静岡、愛知、岐阜、石川、大阪、広島、愛媛、福岡)で合計12回開催し延べ441名の参加者を得ることができ、広く鑄物製造事業場に対しリスクアセスメントの導入を呼びかけ開催することができた。

すでに参加した関係者から、地元地域での追加開催の要望もあり、岡山地区では独自開催を検討しているなどリスクアセスメントへの関心の高さがうかがえる。

2) アンケート調査と実施効果

事業の実施効果を把握するため、(1)事業開始初期(8月)に鑄造協会傘下事業場に対して労働安全衛生マネジメントシステム並びにリスクアセスメントの実施状況等に関する調査を、(2)リスクアセスメント推進研修会終了時に参加者に対して、所属事業場におけるリスクアセスメント導入の可能性と研修会実施に関する調査を行った。

リスクアセスメント推進研修会に参加した受講者のアンケート調査結果によると、労働安全衛生マネジメントシステム及びリスクアセスメントについては、27%の受講者が知らなかったが、今後のリスクアセスメント導入の可能性については、およそ8割の事業場で実現に向けて検討するとしており、その実施が安全衛生上“大いに役立つ”が51%、“ある程度役立つ”が45%と、全体の96%が役立つとし、その効果を認めていたことから、本研修会による鑄物製造事業場へのリスクアセスメント導入の期待が高まったと考えられ、その普及・促進について当初目標の達成が図られたと考えられる。

事業開始当初と実施後(リスクアセスメント推進研修会終了時)におけるリスクアセスメント導入に関する変化を見ると、「すでに取り組んでいる事業場」の割合が12%であったが、「平成19年度から取り組む事業場(取り組み済みと計画の検討等を含む)」の割合は42%(30ポイント増加)と、将来の導入を検討するまで含めると「リスクアセスメントに取り組む事業場」の割合は95%(83ポイント増加)となり、鑄物製造事業場に占めるリスクアセスメント導入事業場の割合を高めるという当初の目標は一応達成されたと考えられる。

しかしながら、研修会に参加した鑄物製造事業場は、日ごろから安全衛生の向上に理解のある事業場であり、今後、鑄造協会傘下以外の事業場も含めた全国の鑄物製造事業場へのリスクアセスメントの普及・促進が課題となり、関係団体や行政との連携等が求められるところである。

(1) 第1回アンケート調査

鑄造協会傘下事業場 680 社の経営トップに対し、品質、環境マネジメントシステム及び労働安全衛生マネジメントシステムの取り組み状況ほか安全衛生活動についてアンケート調査し、323 社（48%）から回答を得た。品質及び環境マネジメントシステムはいずれも“取り組んでいる”、“認証済み”を併せても過半数に満たない状況にあり、労働安全衛生マネジメントシステムについても、“取り組んでいる（12%）”と“認証済み（2%）”を合わせてもかなり少ない（14%）状況であった。

一方、安全衛生活動を見ると、リスクアセスメントについて“研修会に参加した（10%）”と“取り組んでいる（12%）”を合わせると 22%と若干増え、“関心がある（31%）”を含めると 5 割以上の企業がその必要性を感じていると思われる。

[別紙 3：鑄物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業アンケート調査（第 1 回結果）参照]

(2) 第2回アンケート調査

リスクアセスメント推進研修会終了時に参加者 441 名に対して、所属事業場におけるリスクアセスメント導入の可能性と研修会の実施についてアンケート調査し、参加者 414 名から回答を得た。

受講するまで労働安全衛生マネジメントシステム及びリスクアセスメントについて 27%の受講者が知らなかったが、労働安全衛生マネジメントシステムの中核をなすリスクアセスメントについて尋ねると、研修会実施後は、“導入はむずかしい”と回答した事業場は 5%に止まり、今後、労働安全衛生マネジメントシステムやリスクアセスメント導入の可能性ありが 81%と、十分に期待できる結果となった。

導入について特に重要なことを尋ねると、「トップの決意」（50%）、「従業員への周知と理解」（43%）が高く、「リスクアセスメント推進体制の充実」（30%）がそれに続いている。

実施責任者の候補について尋ねると、「工場長」（37%）、「製造部長」（24%）、「社長」（23%）が高く、「製造課長」がそれに続く結果であった。

また、優先的にリスクアセスメントを実施すべき工程は「造形工程」（43%）であり、「溶解工程」（41%）、「仕上げ工程」（40%）が続いている。リスクアセスメントの実施が安全衛生上役立つかの問いに対し、“大いに役立つ”が 51%、“ある程度役立つ”が 45%と、96%の受講者が役立つと回答しており、リスクアセスメントの効果を認めているものの、4S、パトロール、KY などの従来からの日常安全活動を評価する回答が 2%寄せられている。

一方、研修会については、9 割以上の受講者から“おおむね分かりやすく役に立った”と評価されているが、“時間が短い”が 41%、“難しい”が 28%あり、カリキュラム編成や事業場の研修協力について、今後の課題として検討する必要がある。

[別紙 4：鑄物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業アンケート調査（第 2 回結果）参照]

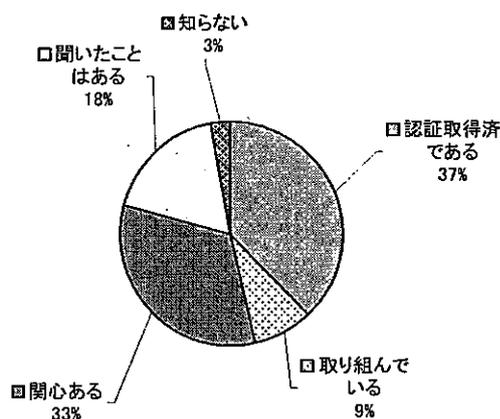
最後に、本事業を実施運営するに当たりご協力いただいたリスクアセスメント入門マニュアル作成委員会委員およびコーディネーター、社団法人日本鑄造協会本部および支部の相談員はじめ事務局の方々に紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業アンケート調査(第1回結果)

[一部複数回答あり。(％の割合は回答事業場数に対するもの)](回答 323事業場)

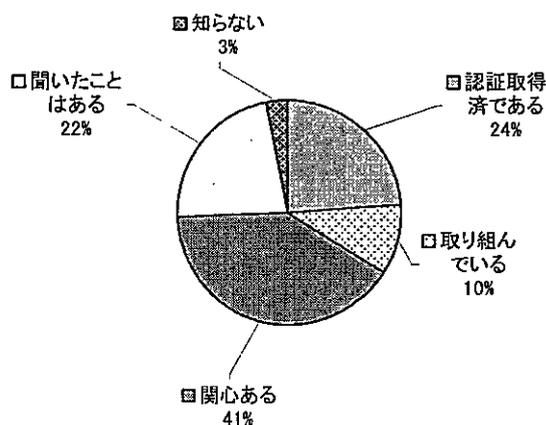
1. 品質マネジメントシステム(ISO9001)について

認証取得済である	122	37%
取り組んでいる	28	9%
関心ある	106	33%
聞いたことはある	58	18%
知らない	9	3%



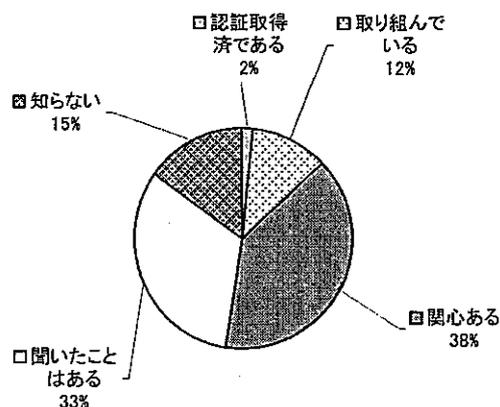
2. 環境マネジメントシステム(ISO14001)について

認証取得済である	77	24%
取り組んでいる	32	10%
関心ある	131	41%
聞いたことはある	72	22%
知らない	10	3%



3. 労働安全衛生マネジメントシステムについて

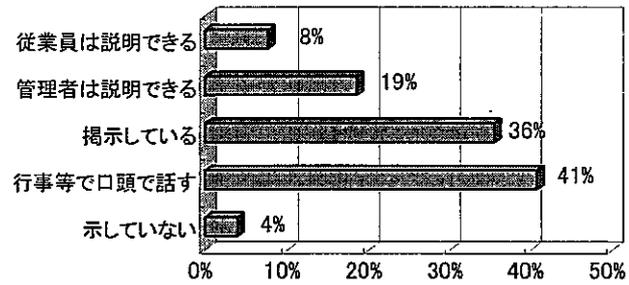
認証取得済である	5	2%
取り組んでいる	37	12%
関心ある	126	38%
聞いたことはある	104	33%
知らない	48	15%



4. 経営トップの安全衛生方針は

従業員は説明できる	25	8%
管理者は説明できる	60	19%
掲示している	115	36%
行事等で口頭で話す	132	41%
示していない	13	4%

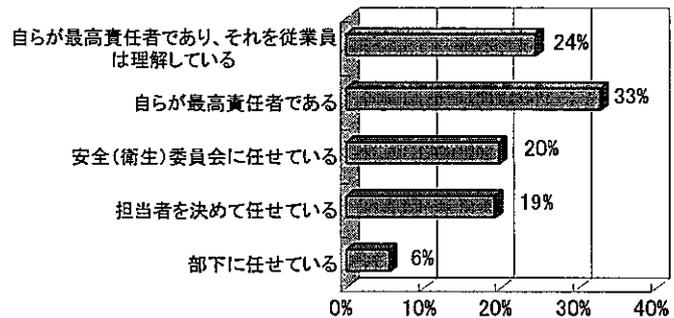
(複数回答あり)



5. 安全衛生の問題は

自らが最高責任者であり、それを従業員は理解している	79	24%
自らが最高責任者である	106	33%
安全(衛生)委員会に任せている	64	20%
担当者を決めて任せている	62	19%
部下に任せている	18	6%

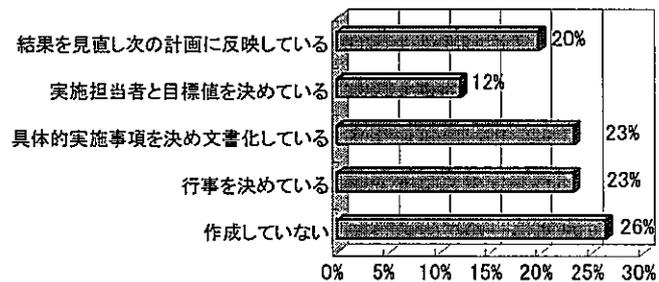
(複数回答あり)



6. 安全衛生計画は

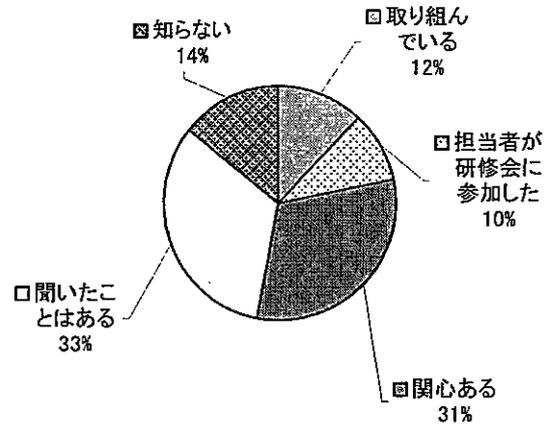
結果を見直し次の計画に反映している	64	20%
実施担当者と目標値を決めている	39	12%
具体的実施事項を決め文書化している	75	23%
行事を決めている	75	23%
作成していない	85	26%

(複数回答あり)



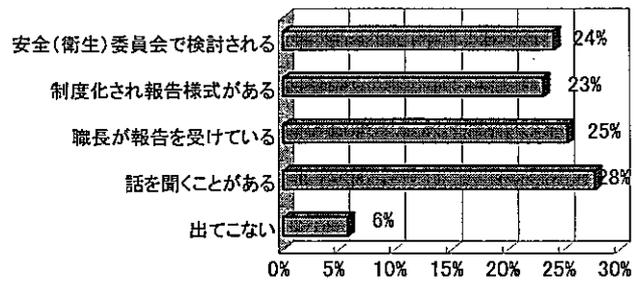
7. リスクアセスメントは

取り組んでいる	39	12%
担当者が研修会に参加した	31	10%
関心ある	101	31%
聞いたことはある	106	33%
知らない	46	14%



8. 従業員のヒヤリハット体験は

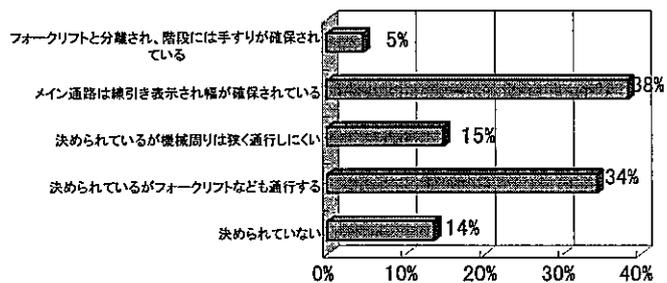
安全(衛生)委員会で検討される	78	24%
制度化され報告様式がある	75	23%
職長が報告を受けている	82	25%
話を聞くことがある	90	28%
出てこない	19	6%



(複数回答あり)

9. 作業者の通路(工場内の通路)は

フォークリフトと分離され、階段には手すりが確保されている	15	5%
メイン通路は線引き表示され幅が確保されている	124	38%
決められているが機械周りは狭く通行しにくい	48	15%
決められているがフォークリフトなども通行する	111	34%
決められていない	44	14%

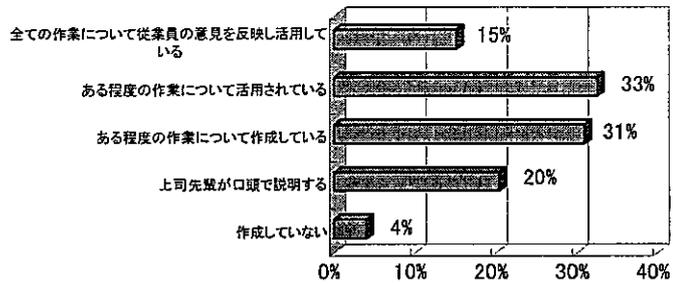


(複数回答あり)

10. 作業手順は

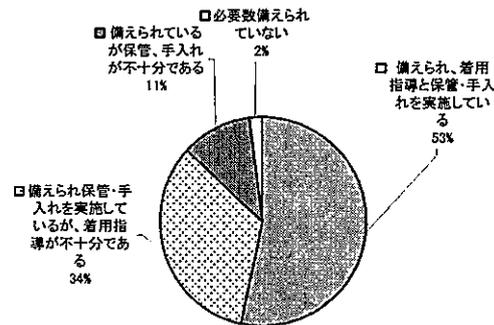
全ての作業について従業員の意見を反映し活用している	49	15%
ある程度の作業について活用されている	105	33%
ある程度の作業について作成している	100	31%
上司先輩が口頭で説明する	66	20%
作成していない	13	4%

(複数回答あり)



11. 安全衛生保護具は

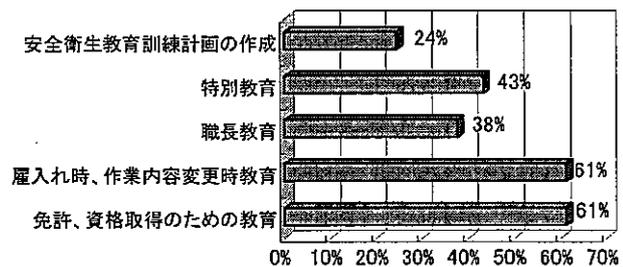
備えられ、着用指導と保管・手入れを実施している	171	53%
備えられ保管・手入れを実施しているが、着用指導が不十分である	108	34%
備えられているが保管、手入れが不十分である	36	11%
必要数備えられていない	6	2%



12. 安全衛生教育で実施していることは

安全衛生教育訓練計画の作成	79	24%
特別教育	140	43%
職長教育	122	38%
雇入れ時、作業内容変更時教育	198	61%
免許、資格取得のための教育	198	61%

(複数回答あり)



鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業アンケート調査（第1回結果）

・経営トップ(社長、工場長等)の皆様をご記入ください。記入例を参考にアンケート項目の該当欄(No.12については複数可)を○で囲んで下さい。該当しない場合は記入する必要はありません。
 ・事業場名、所在地(都道府県名で結構です。)をご記入ください。また労働者数は該当人数を○で囲んでください。

労働者数	29人以下[112社]、 30～49人[56社]、 50～99人[72社]、 100～199人[31社]、 200人以上[43社]、 無回答[9社]
------	--

合計
323社

アンケート項目		A	B	C	D	E
1	品質マネジメントシステム(ISO9001)について	知らない	聞いたことはある	関心ある	取り組んでいる	認証取得済である
		9	58	106	28	122
2	環境マネジメントシステム(ISO14001)について	知らない	聞いたことはある	関心ある	取り組んでいる	認証取得済である
		10	72	131	32	77
3	労働安全衛生マネジメントシステムについて	知らない	聞いたことはある	関心ある	取り組んでいる	認証取得済である
		48	104	126	37	5
4	経営トップの安全衛生方針は	示していない	行事等で口頭で話す	掲示している	管理者は説明できる	従業員は説明できる
		13	132	115	60	25
5	安全衛生の問題は	部下に任せている	担当者を決めて任せている	安全(衛生)委員会に任せている	自らが最高責任者である	自らが最高責任者であり、それを従業員は理解している
		18	62	64	106	79
6	安全衛生計画は	作成していない	行事を決めている	具体的実施事項を決め文書化している	実施担当者と目標値を決めている	結果を見直し次の計画に反映している
		85	75	75	39	64
7	リスクアセスメントは	知らない	聞いたことはある	関心ある	担当者が研修会に参加した	取り組んでいる
		46	106	101	31	39
8	従業員のヒヤリハット体験は	出てこない	話を聞くことがある	職長が報告を受けている	制度化され報告様式がある	安全(衛生)委員会で検討される
		19	90	82	75	78
9	作業者の通路(工場内の通路)は	決められていない	決められているがフォークリフトなども通行する	決められているが機械周りは狭く通行しにくい	メイン通路は線引き表示され幅が確保されている	フォークリフトと分離され、階段には手すりが確保されている
		44	111	48	124	15
10	作業手順は	作成していない	上司先輩が口頭で説明する	ある程度の作業について作成している	ある程度の作業について活用されている	全ての作業について従業員の意見を反映し活用している
		13	66	100	105	49
11	安全衛生保護具は	必要数備えられていない	備えられているが保管、手入れが不十分である	備えられ保管・手入れを実施しているが、着用指導が不十分である	備えられ、着用指導と保管・手入れを実施している	/
		6	36	108	171	
12	安全衛生教育で実施していることは	免許、資格取得のための教育	雇入れ時、作業内容変更時教育	職長教育	特別教育	安全衛生教育訓練計画の作成
		198	198	122	140	79

ご記入いただいた情報につきましては、(社)日本鋳造協会及び中央労働災害防止協会が責任を持って管理し、本事業の的確な実施のためにのみ使用いたします。ご協力ありがとうございました。

鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業アンケート調査票（第1回様式）

平成18年8月実施

- ・経営トップ（社長、工場長等）の皆様がご記入ください。記入例を参考にアンケート項目の該当欄（No. 12については複数可）を○で囲んで下さい。該当しない場合は記入する必要はありません。
- ・事業場名、所在地（都道府県名で結構です。）をご記入ください。また労働者数は該当人数を○で囲んでください。

事業場名	所在地（都道府県）	労働者数 (29人以下、30～49人、50～99人、100～199人、200人以上)
------	-----------	---

記入例

	1 品質マネジメントシステム（ISO9001）について	知らない	聞いたことはある	関心ある	○取り組んでいる	E 認証取得済である
	12 安全衛生教育で実施していることは	○免許、資格取得のための教育	○雇入れ時、作業内容変更時教育	職長教育	○特別教育	安全衛生教育訓練計画の作成

アンケート項目

	1 品質マネジメントシステム（ISO9001）について	知らない	聞いたことはある	関心ある	取り組んでいる	E 認証取得済である
	2 環境マネジメントシステム（ISO14001）について	知らない	聞いたことはある	関心ある	取り組んでいる	認証取得済である
	3 労働安全衛生マネジメントシステムについて	知らない	聞いたことはある	関心ある	取り組んでいる	認証取得済である
	4 経営トップの安全衛生方針は	示していない	行事等で口頭で話す	掲示している	管理者は説明できる	従業員は説明できる
	5 安全衛生の問題は	部下に任せている	担当者を決めて任せている	安全（衛生）委員会に任せている	自らが最高責任者である	自らが最高責任者であり、それを従業員は理解している
	6 安全衛生計画は	作成していない	行事を決めている	具体的実施事項を決め文書化している	実施担当者で目標値を決めている	結果を見直し次の計画に反映している
	7 リスクアセスメントは	知らない	聞いたことはある	関心ある	担当者が研修会に参加した	取り組んでいる
	8 従業員のヒヤリハット体験は	出てこない	話を聞くことがある	職長が報告を受けている	制度化され報告様式がある	安全（衛生）委員会で検討される
	9 作業者の通路（工場内の通路）は	決められていない	決められているがフォークリフトなども通行する	決められているが機械周りは狭く通行しにくい	メイン通路は線引き表示され幅が確保されている	フォークリフトと分離され、階段には手すりが確保されている
	10 作業手順は	作成していない	上司先輩が口頭で説明する	ある程度の作業について作成している	ある程度の作業について活用されている	全ての作業について従業員の意見を反映し活用している
	11 安全衛生保護具は	必要数備えられていない	備えられているが保管、手入れが不十分である	備えられ保管・手入れを実施しているが、着用指導が不十分である	備えられ、着用指導と保管・手入れを実施している	
	12 安全衛生教育で実施していることは	免許、資格取得のための教育	雇入れ時、作業内容変更時教育	職長教育	特別教育	安全衛生教育訓練計画の作成

ご記入いただいた情報につきましては、（社）日本鋳造協会及び中央労働災害防止協会が責任を持って管理し、本事業の的確な実施のためにのみ使用いたします。

ご協力ありがとうございました。

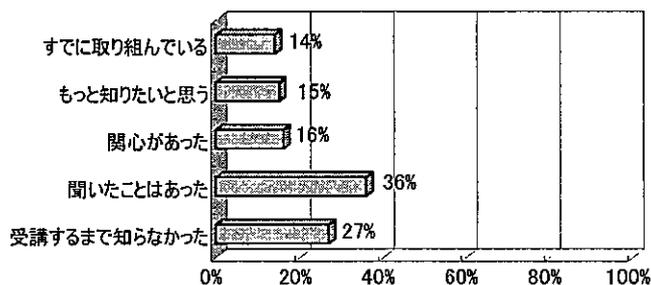
鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業アンケート調査（第2回結果）

〔一部複数回答あり。（%の割合は回答事業場数に対するもの）〕（回答 414事業場）

1. リスクアセスメントについて

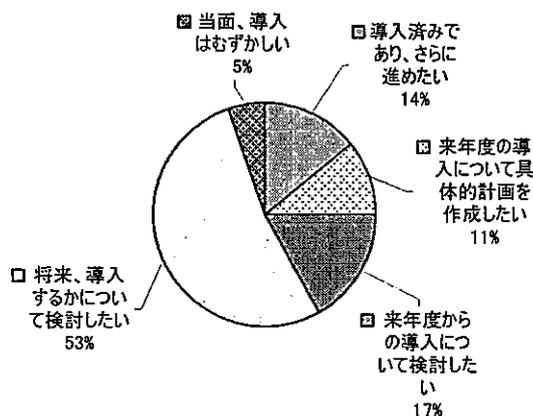
すでに取り組んでいる	56	14%
もっと知りたいと思う	62	15%
関心があった	67	16%
聞いたことはあった	147	36%
受講するまで知らなかった	111	27%

（複数回答あり）



2. リスクアセスメントの導入の可能性について

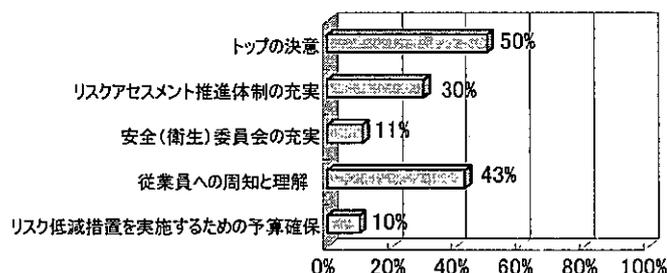
導入済みであり、さらに進めたい	57	14%
来年度の導入について具体的計画を作成したい	43	11%
来年度からの導入について検討したい	67	17%
将来、導入するかについて検討したい	211	53%
当面、導入はむずかしい	21	5%



3. リスクアセスメントの導入について特に重要なことは何ですか？

トップの決意	208	50%
リスクアセスメント推進体制の充実	124	30%
安全（衛生）委員会の充実	45	11%
従業員への周知と理解	178	43%
リスク低減措置を実施するための予算確保	43	10%

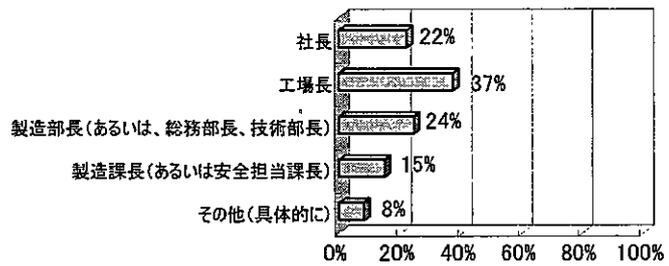
（複数回答あり）



4. リスクアセスメント担当者(実施責任者)の候補は誰ですか？

社長	97	22%
工場長	154	37%
製造部長(あるいは、総務部長、技術部長)	101	24%
製造課長(あるいは安全担当課長)	61	15%
その他(具体的に)	33	8%

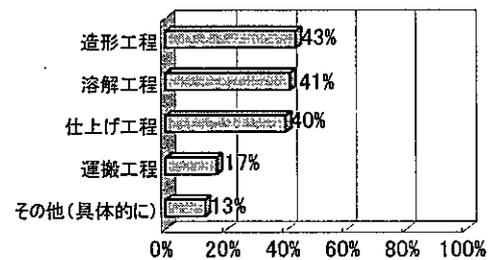
(複数回答あり)



5. リスクアセスメントを優先的に実施する工程はどこですか？

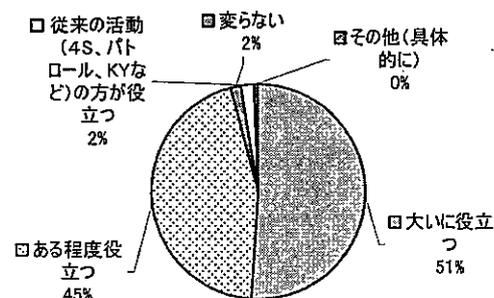
造形工程	178	43%
溶解工程	170	41%
仕上げ工程	164	40%
運搬工程	69	17%
その他(具体的に)	53	13%

(複数回答あり)



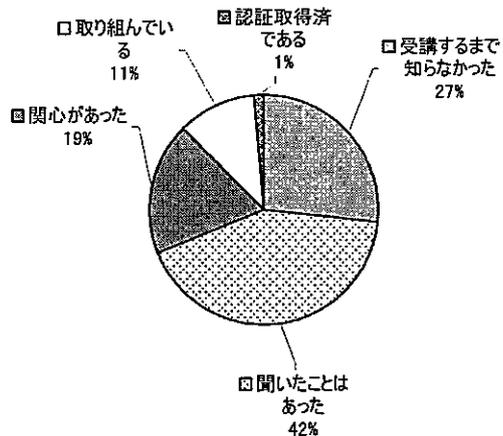
6. リスクアセスメントを実施した場合、安全衛生の向上にどの程度役立つと考えられます

大いに役立つ	209	51%
ある程度役立つ	183	45%
変わらない	7	2%
従来の活動(4S、パトロール、KYなど)の方が役立つ	8	2%
その他(具体的に)	2	0%



7. 労働安全衛生マネジメントシステム
について

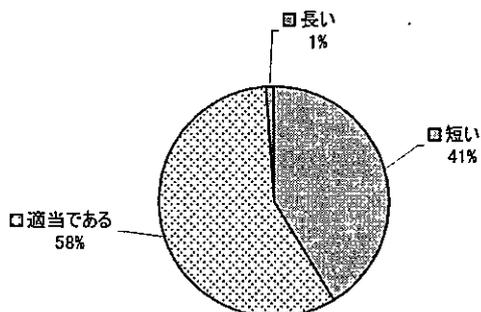
受講するまで知らなかった	110	27%
聞いたことはあった	175	42%
関心があった	77	19%
取り組んでいる	46	11%
認証取得済である	6	1%



(研修会の実施内容について)

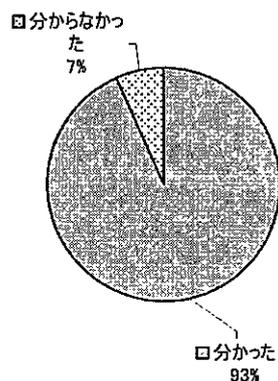
8. (1)実施時間は、

短い	169	41%
適当である	235	58%
長い	4	1%



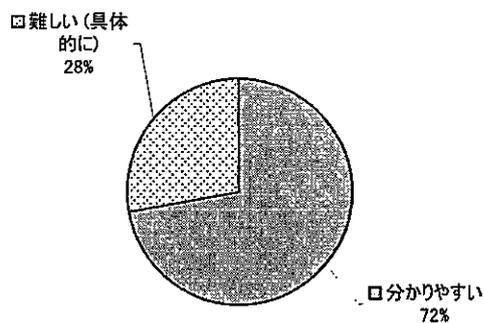
8. (2)リスクアセスメントのイメージは

分かった	381	93%
分からなかった	27	7%



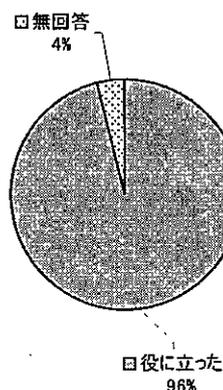
8. (3)リスクアセスメント導入の実施手順は、

分かりやすい	289	72%
難しい(具体的に)	111	28%



8. (4)演習はリスクアセスメントの基本を学ぶ上で

役に立った	398	96%
無回答	16	4%



9. 具体的意見等

- ・ 無料での開催は大変ありがたい。
- ・ 労働衛生関係の分析の仕方がやや難しい。
- ・ 大変参考になりました。是非、何度も開催していただきたいと思います。
- ・ 労働災害防止、鋳造業の“危ない”というイメージを無くすために、研修会を今後も行ってください。
- ・ これまでの対策が表面的であったと反省しています。
- ・ マニュアルが分かりやすく、非常に参考になると思います。
- ・ 半日の講習では理解しきれない部分があったので、回数を重ねられたら良いと思う。
- ・ 法的にやらねばならないことを強調した方がよい。
- ・ 鋳造業に合った内容だったので、取り組み易かった。今後参考にしたい。
- ・ 大変有効な資料が得られたので、役立てていきたいと思います。
- ・ 現場作業に合った研修会を今後も実施して下さい。又、参加したいと思ってます。
- ・ 改めて安全衛生の意義、重要度の再発見、再認識をしました。
- ・ ロールプレイをすることで座学だけでは理解できないことも確認できたのでよかった。
- ・ 仮にリスクアセスメントを導入した場合であっても、弊社の場合、派遣社員が多い為、徹底は難しいと思われる。

鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業アンケート調査(第2回結果)

・研修会終了時における受講者の感想又は所属事業場の実情を踏まえて記入、複数回答可。

労働者数	29人以下[90]社、 30～49人[67]社、 50～99人[84]社、 100～199人[52]社、 200人以上[79]社、 無回答[42]社
------	--

合計
414社

アンケート項目

1	リスクアセスメントについて	受講するまで知らなかった	聞いたことはあった	関心があった	もっと知りたいと思う	すでに取り組んでいる
		111	147	67	62	56
2	リスクアセスメントの導入の可能性について	当面、導入はむずかしい	将来、導入するかについて検討したい	来年度からの導入について検討したい	来年度の導入について具体的計画を作成したい	導入済みであり、さらに進めたい。
		21	211	67	43	57
3	リスクアセスメントの導入について特に重要なことは何ですか？	トップの決意	リスクアセスメント推進体制の充実	安全(衛生)委員会の充実	従業員への周知と理解	リスク低減措置を実施するための予算確保
		208	124	45	178	43
4	リスクアセスメント担当者(実施責任者)の候補は誰ですか？	社長	工場長	製造部長(あるいは、総務部長、技術部長)	製造課長(あるいは安全担当課長)	その他(具体的に)
		97	154	101	61	33
5	リスクアセスメントを優先的に実施する工程はどこですか？	造型工程	溶解工程	仕上げ工程	運搬工程	その他(具体的に)
		178	170	164	69	53
6	リスクアセスメントを実施した場合、安全衛生の向上にどの程度役立つと考えられますか？	大いに役立つ	ある程度役立つ	変らない	従来の活動(4S、パトロール、KYなど)の方が役立つ	その他(具体的に)
		209	183	7	8	2
7	労働安全衛生マネジメントシステムについて	受講するまで知らなかった	聞いたことはあった	関心があった	取り組んでいる	認証取得済である
		110	175	77	46	6
(研修会の実施内容について)						
8	(1)実施時間は、	短い	適当である	長い		
		169	235	4		
	(2)リスクアセスメントのイメージは	分かった	分からなかった			
		381	27			
	(3)リスクアセスメント導入の実施手順は、	分かりやすい	難しい(具体的に)			
		289	111			
	(4)演習はリスクアセスメントの基本を学ぶ上で	役に立った				
		398				
12	その他、意見等ご記入下さい。					

鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業アンケート調査票（第2回様式）

平成19年1月～3月実施

・研修会終了時に、貴殿の感想又は所属事業場の実情を踏まえてご記入下さい。記入例を参考にアンケート項目の該当欄(複数可)を○で囲んで下さい。該当しない場合は記入する必要はありません。
 ・事業場名、所在地(都道府県名で結構です。)をご記入下さい。また労働者数は該当人数を○で囲んで下さい。

事業場名	所在地(都道府県)	労働者数	(29人以下、 30～49人、 50～99人、 100～199人、 200人以上)		
------	-----------	------	---	--	--

記入例

1	リスクアセスメントについて	受講するまで知らなかった	聞いたことはあった	関心があった	もっと知りたいと思う	すでに取り組んでいる
3	リスクアセスメントの導入について特に重要なことは何ですか？	トップの決意	リスクアセスメント推進体制の充実	安全(衛生)委員会の充実	従業員への周知と理解	リスク低減措置を実施するための予算確保

アンケート項目

1	リスクアセスメントについて	受講するまで知らなかった	聞いたことはあった	関心があった	もっと知りたいと思う	すでに取り組んでいる
2	リスクアセスメントの導入の可能性について	当面、導入はむずかしい	将来、導入するかについて検討したい	来年度からの導入について検討したい	来年度の導入について具体的計画を作成したい	導入済みであり、さらに進めたい。
3	リスクアセスメントの導入について特に重要なことは何ですか？	トップの決意	リスクアセスメント推進体制の充実	安全(衛生)委員会の充実	従業員への周知と理解	リスク低減措置を実施するための予算確保
4	リスクアセスメント担当者(実施責任者)の候補は誰ですか？	社長	工場長	製造部長(あるいは、総務部長、技術部長)	製造課長(あるいは安全担当課長)	その他(具体的に)
5	リスクアセスメントを優先的に実施する工程はどこですか？	造型工程	溶解工程	仕上げ工程	運搬工程	その他(具体的に)
6	リスクアセスメントを実施した場合、安全衛生の向上にどの程度役立つと考えられますか？	大いに役立つ	ある程度役立つ	変らない	従来の活動(4S、パトロール、KYなど)の方が役立つ	その他(具体的に)
7	労働安全衛生マネジメントシステムについて	受講するまで知らなかった	聞いたことはあった	関心があった	取り組んでいる	認証取得済である

(研修会の実施内容について)

8	(1)実施時間は、	短い	適当である	長い		
	(2)リスクアセスメントのイメージは	分かった	分からなかった			
	(3)リスクアセスメント導入の実施手順は、	分かりやすい	難しい(具体的に)			
	(4)演習はリスクアセスメントの基本を学ぶ上で	役に立った				

9	その他、意見等ご記入下さい。					
---	----------------	--	--	--	--	--

ご記入いただいた情報につきましては、(社)日本鋳造協会及び中央労働災害防止協会が責任を持って管理し、本事業の的確な実施のためにのみ使用いたします。

ご協力ありがとうございました。

鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業実施計画

1 趣 旨

中小企業への労働安全衛生マネジメントシステム及びリスクアセスメントの普及・定着促進のため、マニュアルを作成するとともに、業種別団体が実施する研修会への講師派遣等の支援を行う。

平成 18 年度は、傘下事業場の多くが中小企業である全国的組織として社団法人日本鋳造協会（以下「鋳造協会」という。）を通じ、その会員である鋳物製造工程を有する事業場を対象に、労働安全衛生マネジメントシステムの中核的活動であるリスクアセスメントの導入を広く普及することを目的として実施する。

2 事務局とコーディネーター

事業の事務局を中央労働災害防止協会中小企業対策部企画課におき、業種別団体の窓口・まとめ役として鋳造協会 1 名、リスクアセスメントの導入を図る入門マニュアル作成のまとめ役として安全衛生専門家 1 名（合計 2 名）を本事業のコーディネーターとして委嘱する。

3 実施期間

平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで

4 実施事項

事業の主な実施事項を次のとおり定める。

1) 全体会議（自律的安全衛生管理運営会議）

鋳造協会の全国支部組織である各組合（32 組合）の事務局に対し本事業の概要について説明する。

2) 集団説明会

① 各組合（ブロック単位を含む）において傘下事業場に対し本事業の概要について説明する。

② 鋳造協会の全国大会で本事業の広報を兼ねてリスクアセスメントの発表を行う。

3) リスクアセスメント・労働安全衛生マネジメントシステム相談員の養成

労働安全衛生マネジメントシステムの中核的活動であるリスクアセスメントの導入を広く普及するため、傘下事業場の相談に応じその推進を図る相談員を各組合に 1 名乃至 2 名養成する。相談員養成研修を全国レベルで 1 回実施（1 日研修）し、労働安全衛生マネジメントシステムの基本と鋳物事業場向きのリスクアセスメントの導入について研修する。

なお相談員は鋳造協会が各組合の推薦を受けて選任する。

4) リスクアセスメント推進研修会

相談員養成研修終了後、相談員は平成 18 年度中に傘下事業場に対するリスクアセスメント導入を目指した研修会（半日研修）を各組合（ブロック単位を含む）で実施する。研修会の開催地は北海道、岩手、埼玉（東京）、新潟、静岡、愛知、岐阜、石川、大阪、広島、愛媛（香川）、福岡を予定し、講師は中災防地区安全衛生サービスセンター（支所を含む）の管理士が技術的内容を、相談員が基本事項の説明と進行を担当する。

なお、平成 17 年度の実施団体である（社）日本金属プレス工業協会と協議のうえ、フォローアップ研修会を実施する。開催地は、福島、埼玉、栃木、京都、静岡、愛知、長野、石川、京都、広島を予定する。

5) アンケート調査

事業の実施効果を把握するため、事業開始時と終了時に傘下事業場に対する労働安全衛生マネジメントシステムに関するアンケート調査を行う。

6) 鋳物製造事業場向けリスクアセスメント入門マニュアル作成委員会

委員会を設置しリスクアセスメント入門マニュアルを作成し、リスクアセスメント推進研修会の教材として使用する。委員会の実施計画は別に定める。

5 業務分担

事業における研修会・委員会等の運営、協議及び経理処理等について、鑄造協会と中災防の業務分担を下記のとおり定める。

6 予 算 (略)

鑄物製造事業場におけるリスクアセスメント推進事業の業務分担

	運営主体	実施事項	協議事項	経理処理	
1) 全体会議 (自律的安全衛生管理運営会議: 団体の支部事務局に対する事業説明)	鑄造協会 (集団説明会の(1)組合開催と、4)のリスクアセスメント推進研修会は主に各組合が担当する。)	日程調整、開催通知、全体会議委員及び相談員の決定	会議の議事事項、研修会の内容、講師派遣、その他必要事項	委員謝金、旅費、会場費等の経理処理は中災防で実施する。(鑄造協会立て替え費は一定期間(四半期等)ごとに精算する。)	
2) 集団説明会 (傘下事業場に対する事業説明)					
(1) 各組合 (16組合で実施予定)					
(2) 鑄造協会全国大会 (札幌)					
3) リスクアセスメント (RA)・マネジメントシステム (MS) 相談員養成研修 (1日研修。団体の各支部に相談員1~2名 (合計31名予定)を養成)					
4) リスクアセスメント推進研修会 (半日研修。傘下事業場に対する研修を12箇所で開催予定)					
5) アンケート調査 (傘下事業場に対する労働安全衛生マネジメントシステムのアンケート調査: 2回)	中災防	集計取りまとめ			
6) 鑄物製造事業場におけるリスクアセスメント入門マニュアル作成委員会 (リスクアセスメント導入に向けての入門書的マニュアル作成)		日程調整、開催通知、委員委嘱			
(1) 本委員会					
(2) 作業部会					

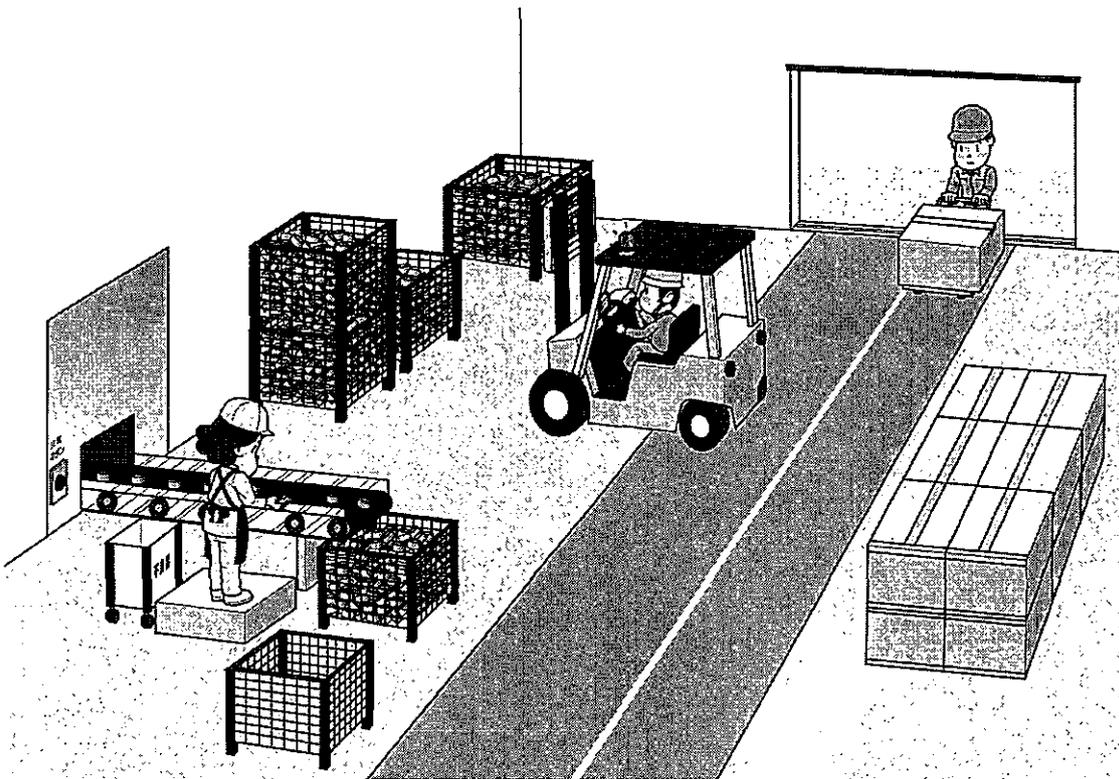
(注) 本事業の報告書は中災防が作成する。

演習 1 フォークリフト作業 (安全)

構内で作業者がフォークリフトを運転して、仮置きされた製品を構外へ搬出しています。
演習用紙 1 を使用して下さい。

演習方法

- 1 個人作業で、リスクアセスメント実施一覧表の作成 (安全編・52 頁～) を参照し、用紙の A 枠内のリスクを見積り [5 分]、次にグループ検討 [15 分] します。
- 2 再び個人作業で、用紙の B 枠内を順に記入し [15 分]、次にグループ検討 [20 分] します。(時間は目安です。少なくとも一項目について措置案想定リスクの見積りまで記入します。)
- 3 グループ発表や講評を行うと効果的です。



演習2 ^{せき} 堰折り作業 (労働衛生)

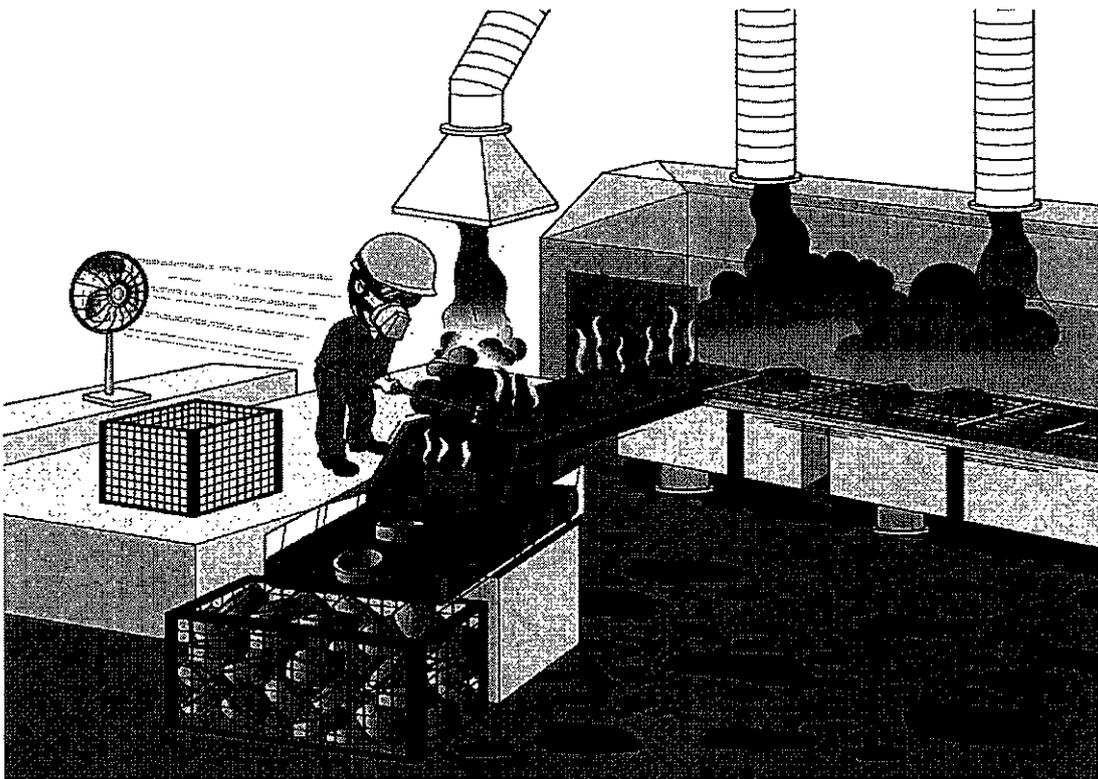
作業者は、製品の堰折り作業をしています。演習用紙2を使用して下さい。

- * 作業所内の乾球温度：40℃、湿球温度：30℃
- * 粉じんの種類：遊離珪酸含有 10%以上の粉じん
- * 騒音レベル：常時 85dB(A)
- * 粉じんの取扱量：500Kg
- * 保護具：保護眼鏡、防じんマスク、手袋
- * 作業時間：1時間 30分

演習方法

個人作業で、リスクアセスメント実施一覧表の作成（労働衛生編・57～78頁）を参照し、演習用紙2の①危険性又は有害性と発生のおそれのある災害、②既存の災害防止対策、③リスクの見積り、④リスク低減措置案、⑤措置案想定リスクの見積り、⑥対応措置の順に記入し、次にグループ検討します。

（少なくとも一項目について⑤措置案想定リスクの見積りまで記入します。）



演習用紙 1

演習・討議
(年 月 日)

グループ	リーダー	書記	メンバー			
			(発表)			

演習 1 のフォークリフト作業について実施します。

1. 作業名 (機械・設備)	2. 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 * 1 (災害に至る過程として「～なので、～して」+ 「～になる」と記述します)	3. 既存の災害 防止対策	4. リスクの見積り * 2				5. リスク低減措置案	6. 措置案想定リスク の見積り * 2				7. 対応措置		8. 備考 (残留リスクについて)
			重篤度	可能性	頻度	優先度		重篤度	可能性	頻度	優先度	対策 実施LI	次年度 検討事項	
フォークリフト 運搬作業	①フォークリフトを旋回させるとき、急ハンドルを切ったのでフォークリフトが横転し、シートベルトをしていなかった作業者が投げ出される。	作業前の手順書の確認をしている。	A											
同上	②フォークリフトをバックで運転中、急激に後退したため、後方の積荷に激突して作業者が投げ出される。	作業前の手順書の確認をしている。	10	2	2	IV (14)	・再教育をする。 ・作業手順書を見直し、改定する。	10	1	1	IV (12)	H19 X/25	運転手の定期的な社内技能講習を行う。	
同上	B ③													
同上	④													
同上	⑤													
同上	⑥フォークリフトを運転中、積荷の昇降に気を取られていたので、後方の作業者に気付くのが遅れて激突する。	作業前の手順書の確認をしている。	10	4	2	IV (16)	・フォークリフト専用作業帯に柵を設置する。 ・積載量の見直しをする。	6	2	1	III (9)	H19 Z/1		
同上	⑦フォークリフトをバックで旋回させたとき、急ハンドルを切ったので、搬出中の積荷が右に傾いて製品が飛び出し、台車で荷物を運搬中の作業者に飛来する。	作業前の手順書の確認をしている。	6	2	2	III (10)	・再教育をする。	6	1	1	II (8)	H19 X/22	運転手の定期的な社内技能講習を行う。	

* 1 : 災害の過程をわかりやすく表現します。危険性又は有害性「～なので、～して」+「～になる」のように記述します。

* 2 : 重篤性、可能性、および頻度は、それぞれ第3章(52頁～)の重篤度(災害の程度)、発生の可能性(発生の確率)、および危険性又は有害性に近づく頻度をいいます。優先度欄ではリスクの点数(リスクポイント)を()内に記入します。

演習用紙2

演習2の堰折り作業について実施します。

演習・討議
(年 月 日)

グループ	リーダー	書記	メンバー			
			(発注)			

(化学物質・粉じん)

1. 作業名	2. 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 (災害に至る過程として「~なので、~して」+ 「~になる」と記述します)	3. 既存の災害防止 対策	4. リスクの見積り				5. リスク低減措置案	6. 措置案想定リスクの見積り				7. 対応措置		8. 備考 (残留リスクについて)	
			有害性 レベル	予測 ばく露量 (EP)	作業 時間 管理手法	作業 程度 管理手法		リスク	有害性 レベル	予測 ばく露量 (EP)	作業 時間 管理手法	作業 程度 管理手法	リスク		対策 実施日
①															
②															
③															

(騒音)

1. 作業名	2. 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 (災害に至る過程として「~なので、~して」+ 「~になる」と記述します)	3. 既存の災害防止 対策	4. リスクの見積り			5. リスク低減措置案	6. 措置案想定リスクの 見積り			7. 対応措置		8. 備考 (残留リスクについて)
			有害性 レベル	ばく露 時間	リスク		有害性 レベル	ばく露 時間	リスク	対策 実施日	次年度 検討事項	
①												
②												
③												

(暑熱)

1. 作業名	2. 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 (災害に至る過程として「~なので、~して」+ 「~になる」と記述します)	3. 既存の災害防止 対策	4. リスクの見積り			5. リスク低減措置案	6. 措置案想定リスクの 見積り			7. 対応措置		8. 備考 (残留リスクについて)
			有害性 レベル	作業の 程度	リスク		有害性 レベル	作業の 程度	リスク	対策 実施日	次年度 検討事項	
①												
②												
③												

*この一覧表は、職場の工程ごとに作成します。各工程の全ての作業（作業手順）を取り上げ危険性又は有害性の特定から進めます。

鋳物製造事業場におけるリスクアセスメント入門マニュアル作成委員会実施計画

1 趣 旨

鋳物製造事業場へ労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）を普及促進するためには、まずその中核的活動であるリスクアセスメントを導入し定着することが肝要である。委員会では、鋳物製造工程を有する職場、事業場において活用しやすいリスクアセスメント導入の入門マニュアルを作成する。

2 委 員

鋳物メーカー、安全衛生専門家から合計 12 名選任する。別表（略）のとおり

3 検討内容等

1) 対 象

日本鋳造協会傘下の事業場はじめ、多くの中小規模の鋳物製造事業場の経営者及び安全衛生実務担当者

2) 内 容

テキスト「プレス事業場におけるリスクアセスメント入門マニュアル」（平成 17 年度作成）を基に、鋳物製造現場の調査、実施手順案に沿ったリスクアセスメント・トライアルを実施し、次の項目を検討する。

- ①鋳物製造事業場におけるリスクアセスメントの必要性
- ②鋳物業の特徴的な製造工程（溶解、鋳込み、造型、型ばらし、砂処理、仕上げ等）における設備・機械、作業形態および作業環境等を踏まえたリスクアセスメント導入の実施手順
- ③実施手順に沿った演習方法
- ④関係法令、最近の鋳物製造関連情報、災害事例、リスクアセスメント実施例
- ⑤その他

4 スケジュール（本委員会 4 回、作業部会 7 回程度）

- 1) 本委員会 6 月、8 月、9 月、10 月（4 回）
- 2) 作業部会 6 月～9 月（7 回程度）
- 3) 事業場調査（作業部会として 2 回程度実施）

5 予 算（略）

注：本委員会 6 回、作業部会 3 回（事業場調査 1 回含む）開催し、マニュアルのトライアルを 7 事業場で実施した。